

下水道財政の根本的解決こそが求められています

町は、6月17日の第7回環境・上下水道対策特別委員会で、下水道事業の財政見通しを明らかにしました。

平成27年から令和18年までの実績と見通しをまとめた資料によると、起債残高（いわゆる借金）は令和6年度で106億9千万円あり、毎年5～10億円返済し続けて、令和18年度に50億800万円になるとしています。

町は、来年度から、当面の赤字を避けるために20%の値上げをしたいとしています。13年後の

50億円の借金はそのまま残ります。

そもそも、入善町の下水道使用料の年収は約4億円ですが、その25倍もの借金を抱え、2倍以上の借金返済をしなければならない事業は、独立採算で成り立つはずがありません。

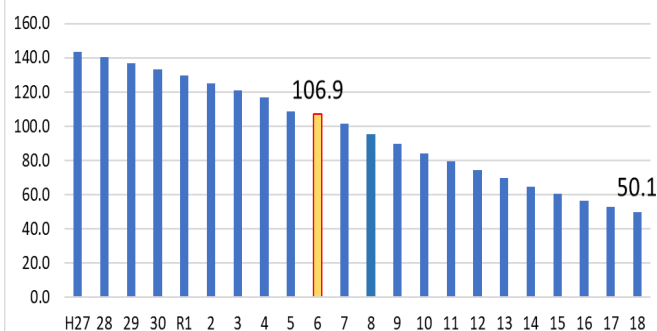
このような問題は、全国の市町村が抱えていると言います。人口減少の前に、下水道事業で地方財政が破綻するかもしれません。多額の補助金を出して下水道事業を推し進めた国の責任があると思います。

値上げは一時しのぎにしかありません。町はすべての課題を明らかにし、町民全員が自分たちの問題として考える時ではないでしょうか。

また、国や県に対して、抜本的な財政支援を強く求める必要があるのではないのでしょうか。

下水道は、生きていくのに不可欠な社会的設備であり、ライフライン（直訳すれば生命線）の一つです。「入善町の生命線は海洋深層水だ」という説もありますが、本当の生命線を守るために、下水道財政の根本的解決が求められています。

起債残高の経過と今後の見込み(億円)



衆院選のお礼

10月27日に行われた衆議院議員選挙では、皆さんの力強いご支援をいただき、ありがとうございました。

今回の選挙では、しんぶん赤旗と日本共産党の裏金問題追及が力になって、政府与党を過半数割れに追い込むことができました。このこと自体は誇りにしてよいのですが、残念なことに共産党の議席増にはつながりませんでした。

今回の結果から教訓を学び、党の前進につなげたいと決意していますので、今後とも皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。

議員定数削減か？

入善町議会は現在、14名の定員で1名欠員となっています。議会では、町の人口減などを理由に議員定数を削減すべきとの声が上がっています。

議員定数はこれまで22→18→14名へと減らされてきました。これをさらに減らしては、それだけ住民の声が町に届きにくくなります。また若者や女性など新たな人たちが議員になりにくくなり、意見かたよってしまいます。

日本共産党は正当な理由のない定数削減には反対しています。

植物暦

ノギク。花言葉は、「長寿と幸福」、「忘れられない想い」などです。



ノギクは特定の植物ではなく、野生の植物で菊のように見えるものすべてを野菊というそうです。富山県ではヨメナやノコンギクが良く見られるということですが、野菊の正確な分類は難しいといえます。

われわれ高齢者にぴったりの花言葉です。白馬岳がようやく初冠雪した日に、川原に咲いていました。